

Title	平成十一年度 三田史学会大会
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1999
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.69, No.1 (1999. 8) ,p.165- 168
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19990800-0165

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

平成十一年度 三田史学会大会

—平成十一年六月二十六日(土)—

研究発表

日本史部会

- 1 近世初頭における大名家臣団の通婚動向——盛岡南部家を事例として——
慶応義塾大学(大学院博士課程) 田原 昇氏
 - 2 明治中期における二つの経済研究団体——日本経済会と国家経済会——
慶応義塾大学(大学院博士課程) 三島 憲之氏
新潟県企画調整部企画課社会文化施設建設室
藤 森 健太郎氏
常磐大学 糸賀 茂男氏
 - 3 十～十二世紀の天皇即位儀礼
 - 4 中世領主のコスモロジー
常磐大学 糸賀 茂男氏
- 東洋史部会
- 1 オスマン・アラブ主義者のディレンマ——〈盟約協会〉の設立とその活動——
慶応義塾大学(大学院博士課程) 田口 晶氏

2 タキーザーデとイラン立憲思想——「カーヴェ」紙論説を中心に——

慶応義塾大学 (大学院博士課程) 佐野 東生 氏

3 君主殺害から見た春秋時代の社会変化

慶応義塾大学 (大学院博士課程) 水野 卓氏

4 ベトナムにおける「国史」の成立

慶応義塾大学 嶋尾 稔氏

西洋史部会

1 ヘーゲルとプロイセン——宗教史的視点から見た国家論の展開——

慶応義塾大学 (大学院博士課程) 守屋 徹氏

2 リヒャルト・ハルマツツの国家構想におけるオーストリアドイツ人の位置づけ

慶応義塾大学 (大学院博士課程) 阿南 大氏

3 十九世紀前期イングランドに見る land steward

——household servant 向けの手引書から——
松阪大学 高橋 裕一氏

4 ベルリン政治学と亡命者——国家学から政治学へ——

同志社大学 (大学院博士課程) 為政 雅代氏

5 公教育大臣デュリュイの女子中等講座 (一八六七年)

——「教会の膝元」か、「ユニヴェルシテの腕の中」か——
広島大学 (大学院博士課程) 阪本 佳代氏

民族考古学部会

1 遺跡出土石器に観察される折断面の生成要因について

——山形県上野 A 遺跡出土の剝片資料と実験資料の分析を通して——

慶応義塾大学 (大学院修士課程) 川崎 知成氏

2 打製石器の被熱要因に関する実験的考察——頁岩の物性変化と石器製作の関連性——

3 近世庚申塔の形式学的分析とその空間的把握

——江戸周辺における単位里圏の設定をとおして——

慶応義塾大学（大学院修士課程） 渡邊 高潔 氏

4 古代アラビアの目のステラに関する考察

慶応義塾大学（大学院博士課程） 石神 裕之 氏

5 北海道噴火湾岸有珠地域における縄文時代からアイヌ文化期にいたる動物資源利用の変遷

——遺跡出土動物骨のタフオノミ的分析——

東邦大学 鶴沢 和宏 氏

講演会

演者 国立歴史民俗博物館 総合研究大学院大学 平川 南 氏

演題 地域社会と環境——歴史学の新展開——

要旨

1 地名をたどる——一点の墨書土器から——

2 地域支配と環境——千曲川とその周辺——

3 地域間交流——海の道——

4 境界祭祀「巻数板」の世界——学問協業の実践——

5 歴史的景観復原——「石仏の谷」——

現代社会において歴史学に課せられた新しい大きな使命の一つは、日本の歴史における自然と人間の交渉史の実像を明確に示すことである。各地域の豊かで多様な自然が、それぞれの歴史や生活の多様性を生んだ。

地域の個性を喪失させ、大都市圏に従属させるような近年の地域開発の底流には、地域の歴史を軽視した中央史観が根強く存在していると考えられる。各地域に所在する歴史・考古・民俗などの資料とその地域の歴史を育んできた

自然環境の解明こそが、これまでの中央志向の歴史観を克服し、豊かな地域の歴史を再構築するカギとなりうるのではないか。こうした方向性のもとに私が近年実践してきたいくつかの試みを紹介してみたい。

三田史学会総会

懇 親 会

三田史学会常任委員・委員 (平成11年7月～平成12年6月)

常任委員

会長 小川英雄

庶務 田代和生 (2年)、吉原和男 (会計兼務 1年)、清水祐司 (2年)、棚橋 訓 (日常庶務 2年)

編集 柳田利夫 (2年)、桐本東太 (1年)、大森雄太郎 (2年)、阿部祥人 (1年)

会計 吉原和男 (1年)

() 内は分担および任期年数

会計監査

犬塚富士夫、宮崎 洋

委員

日本史 鈴江英一、戸沢行夫、西岡芳文、糸賀茂男、湯浅吉美、木村直也

東洋史 尾崎 康、山城喜憲、森 雅子、三沢伸生、野元 晋

西洋史 田辺三千廣、宮前安子、米田 治、坂口昂吉

民俗考古学 近森 正、鈴木公雄、藤村東男